



2024年1月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年12月13日

上場会社名 モイ株式会社 上場取引所 東
コード番号 5031 URL <https://about.moi.st/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 赤松 洋介
問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営管理本部長 (氏名) 入山 高光 TEL 03-3527-1471
四半期報告書提出予定日 2023年12月13日 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年1月期第3四半期の業績（2023年2月1日～2023年10月31日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年1月期第3四半期	4,824	△3.2	129	73.9	140	85.9	107	-
2023年1月期第3四半期	4,985	0.9	74	△61.9	75	△61.7	△32	-

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年1月期第3四半期	7.68	7.68
2023年1月期第3四半期	△2.41	-

(注) 2023年1月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年1月期第3四半期	3,620	1,757	48.5
2023年1月期	3,375	1,638	48.6

(参考) 自己資本 2024年1月期第3四半期 1,757百万円 2023年1月期 1,638百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年1月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2024年1月期	-	0.00	-	-	-
2024年1月期（予想）	-	-	-	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年1月期の業績予想（2023年2月1日～2024年1月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,610	0.1	74	△28.5	74	△29.0	-	-	-

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有
- (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
 - ② ①以外の会計方針の変更：無
 - ③ 会計上の見積りの変更：無
 - ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年1月期3Q	13,966,000株	2023年1月期	13,874,000株
② 期末自己株式数	2024年1月期3Q	一株	2023年1月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年1月期3Q	13,966,000株	2023年1月期3Q	13,344,422株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項は、資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(会計方針の変更)	6
(会計上の見積りの変更)	6
(セグメント情報等)	6
(重要な後発事象)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、コロナ禍からの社会経済活動の緩やかな持ち直しが続く一方で、エネルギーや食料品を中心とした物価の高騰、世界的な景気後退懸念等の影響により、不透明な状況が継続しています。

当社を取り巻くインターネット関連市場につきましては、スマートフォンやタブレット端末の普及に伴い、日本における2023年6月末時点の移動系通信の契約数は、2億1,282万回線（前年同期比4.4%増）と緩やかな増加が続いております。（出所：総務省「電気通信サービスの契約数及びシェアに関する四半期データの公表（令和5年度第1四半期（6月末）」）。また、当社がターゲットとする動画投稿・ライブ配信市場においては、グローバルSNSプラットフォームを中心にライブ配信利用者の増加が継続し、今後も市場は拡大していくことが予想されます。

このような事業環境のもと、当社では、ユーザー満足度の向上を目指して、視聴者と配信者がライブ配信内で協力してクイズに答える「ツイキャスQ」や、人気オンラインゲームを使ったゲームイベント「ツイキャス x Only Up! 登頂チャレンジ」を開催しました。また、プラットフォームの経済規模拡大を目的に、海外在住配信者向け収益化サービスの提供や、メンバーシップ会員限定プレミアム配信チケットの販売を開始し、資本業務提携先である株式会社STPR所属の人気アイドルユニット「すとぷり」とのコラボレーションによるメンバーシップ会員限定プレミアム配信割引クーポンキャンペーンを実施しました。

さらに、プラットフォームにおける文化の拡大を目指して、より多くの利用者にオンライン共同視聴を体験いただくために、ブルース・ウィリス、ブラッド・ピット出演のSFサスペンス映画「12モンキーズ」や新作TVアニメ「政宗くんのリベンジR」等の放送を実施しました。

その結果、当第3四半期累計期間においては、当社の重要指標の一つである月間平均ポイントARPPU（Average Revenue Per Paid Userの略、課金ユーザー一人当たりの平均課金額）は6,579円（前年同期比7.7%増）と堅調に推移しました。また、実質売上総利益（当社が獲得する売上高合計から、収益化された配信者に対してお支払する報酬額と、Apple Inc.、Google Inc.等の決済代行業者に対して支払う手数料を差し引いた金額）については、ポイント購入における決済手段比率の変化がさらに進んだことによる決済手数料総額の減少と、配信者を毎月定額の会員費で応援することができる「メンバーシップ」の継続的な売上増加等の影響により、1,283,304千円（前年同期比2.8%増）となりました。一方で、月間平均ポイントPU（Paid Userの略、課金ユーザー数）は減少傾向を回復するには至らず、75千（前年同期比11.7%減）となり、その結果、「ツイキャス」のポイント販売売上は4,458百万円（前年同期比4.9%減）となりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間における実績は、売上高が4,824,491千円（前年同期比3.2%減）、営業利益は129,362千円（前年同期比73.9%増）、経常利益は140,234千円（前年同期比85.9%増）となり、四半期純利益は107,280千円（前年同期は32,135千円の四半期純損失）となりました。

なお、当社はライブ配信コミュニケーションプラットフォーム事業の単一セグメントであるため、セグメントに関する記載は省略しております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期会計期間末における資産合計は3,620,785千円となり、前事業年度末に比べ245,716千円増加いたしました。

流動資産は3,252,688千円（前事業年度末比300,701千円増加）となりました。主な要因は、現金及び預金の増加373,653千円、預け金の増加49,158千円、その他に含まれる前渡金の増加20,013千円、仮払法人税等の増加18,408千円、売掛金の減少164,210千円等によるものであります。

また、固定資産は368,097千円（前事業年度末比54,985千円減少）となりました。主な要因は、減価償却費の計上による工具、器具及び備品の減少58,207千円等によるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債合計は1,863,534千円となり、前事業年度末に比べ127,164千円増加いたしました。

流動負債は1,863,513千円（前事業年度末比127,254千円増加）となりました。主な要因は、チケット・コンテンツの売買代金及び「メンバーシップ」の会員費である預り金の増加128,996千円、未払法人税等の増加20,700千円、その他に含まれる未払消費税等の増加23,460千円、ユーザーへの支払報酬である買掛金の減少39,404千円、取引先への支払である未払金の減少12,127千円等によるものであります。

また、固定負債は20千円（前事業年度末比90千円減少）となりました。減少要因は、その他に含まれるリース債務の支払90千円によるものであります。

（純資産）

当第3四半期会計期間末における純資産合計は1,757,251千円となり、前事業年度末に比べ118,552千円増加いたしました。これは、減資による資本金の減少1,056,687千円、資本金及び資本準備金からの振り替えによる資本剰余金の増加1,067,959千円、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加107,280千円によるものであります。

この結果、自己資本比率は48.5%（前事業年度末は48.6%）となりました。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年1月期の業績予想につきましては、2023年3月13日公表の「2023年1月期決算短信」から変更はありません。今後、経営環境等の変化により業績予想の見直しが必要と判断した場合には、速やかに開示してまいります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年1月31日)	当第3四半期会計期間 (2023年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,749,802	2,123,456
売掛金	1,169,336	1,005,126
預け金	26,014	75,173
棚卸資産	111	124
その他	6,959	49,045
貸倒引当金	△237	△237
流動資産合計	2,951,986	3,252,688
固定資産		
有形固定資産	250,847	192,481
投資その他の資産		
差入保証金	109,775	113,156
繰延税金資産	62,459	62,459
投資その他の資産合計	172,234	175,615
固定資産合計	423,082	368,097
資産合計	3,375,069	3,620,785
負債の部		
流動負債		
買掛金	801,269	761,865
未払金	368,457	356,329
前受金	148,705	155,639
未払法人税等	12,482	33,182
預り金	387,973	516,969
その他	17,371	39,528
流動負債合計	1,736,259	1,863,513
固定負債		
その他	110	20
固定負債合計	110	20
負債合計	1,736,369	1,863,534
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,106,687	50,000
資本剰余金	876,815	1,944,774
利益剰余金	△344,802	△237,522
株主資本合計	1,638,699	1,757,251
純資産合計	1,638,699	1,757,251
負債純資産合計	3,375,069	3,620,785

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2022年2月1日 至 2022年10月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年10月31日)
売上高	4,985,126	4,824,491
売上原価	2,494,643	2,421,261
売上総利益	2,490,482	2,403,229
販売費及び一般管理費	2,416,099	2,273,867
営業利益	74,383	129,362
営業外収益		
受取利息	12	20
受取手数料	—	8,454
為替差益	—	1,948
雑収入	1,301	448
営業外収益合計	1,314	10,872
営業外費用		
為替差損	253	—
営業外費用合計	253	—
経常利益	75,444	140,234
特別損失		
固定資産除却損	0	0
特別損失合計	0	0
税引前四半期純利益	75,444	140,234
法人税等	107,580	32,954
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△32,135	107,280

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、当第3四半期累計期間において、第1回及び第2回新株予約権の行使による払込みを受けました。

また、当社は、2023年4月27日開催の定時株主総会の決議に基づき、2023年6月2日付けで減資の効力が発生し、当第3四半期累計期間において資本金が1,067,959千円、資本準備金が876,815千円減少し、この減資額全額をその他資本剰余金に振り替えました。

この結果、当第3四半期会計期間末において資本金が50,000千円、資本剰余金が1,944,774千円となっております。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、税引前四半期純損益に一時差異等に該当しない重要な差異を加減した上で、法定実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間（自 2022年2月1日 至 2022年10月31日）

当社はライブ配信コミュニケーションプラットフォーム事業の単一セグメントであるため、セグメントに関する記載を省略しております。

II 当第3四半期累計期間（自 2023年2月1日 至 2023年10月31日）

当社はライブ配信コミュニケーションプラットフォーム事業の単一セグメントであるため、セグメントに関する記載を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。